

け や き

平成29年 6月30日
安城市立今池小学校

集中してがんばりました ～第2回授業参観～

6月23日(金)、本年度2回目の授業参観を開催しました。子どもたちは、参観して下さった方に頑張って学習している姿を見せようとはりきって活動していました。授業では、タブレットを使用したり、プロジェクターを使ったり、親子で作業をしたりといろいろな方法が見られました。子どもたちも、いつもより集中して学習に取り組むことができていました。

また、多くの方に「教育活動診断票」にご協力いただき、ありがとうございました。



給食っておいしい！！ ～1年生親子給食～



6月23日(金)、1年生が親子給食を実施しました。ご家庭の方に来ていただき、試食をかねて、子どもと一緒に給食を食べていただきました。また、岡島栄養教諭から当日のメニューと安城市の学校給食について説明がありました。当日のメニューは、今池小一番人気のビビンバでした。いつもおいしいビビンバですが、今日は一段とおいしく感じ、笑顔がはじけました。

やってみよう ～第3回全校朝会～



6月27日(火)第3回全校朝会を開催しました。今回は4年3組担任の岸真美先生が全校児童に話をしました。

岸先生は、小学校、中学校、高校、大学と違う部活動に所属してきました。常に新しいことに挑戦しようという気持ちがあったからだそうです。他にも、フルマラソンを走ったり、一人でオーストラリアへ行き海に潜ったりと、いつも「や

ってみよう」という気持ちをもって生活していることを話しました。この全校朝会でも、歌が苦手だと言っている岸先生は、携帯電話のCMで流れている「やってみよう」という曲を全校児童の前で披露しました。子どもたちも、「やってみよう」という気持ちが高まったと思います。本校の今年のキーワードである「チャレンジ」につながる、とても素敵な話でした。

素敵な文字が書けるように ～第1回PTA筆ペン・ペン習字クラブ～



6月28日(水)、PTA筆ペン・ペン習字クラブの活動がありました。今年度も高瀬恵美子先生にご指導を受けます。今回は先生が書いてくださった自分の住

所と名前の手本を見ながら、練習をしました。皆さん、真剣に取り組まれていました。きっと素敵な文字が書けるようになることでしょう。

お願い

本校では夕方、安全に家に帰るべき帰宅時刻を設定しています。帰宅時刻後、一人の保護者の方が、数人のお子さんと一緒に運動場で活動をしている姿を見かけます。児童の帰宅等、安全には十分ご配慮をお願いします。

ジャガイモ、おいしーい！！ ～親子じゃがいもの会～

6月24日（土）、安城市民生児童委員の方々、岡本今池町内会長、和田PTA会長、安城北中学校生徒ボランティアの協力を得て、およそ60組の親子が参加して、親子じゃがいもの会を開催しました。この行事は、15年以上も前から行われている今池小学校に伝統的な行事で、多くの地域の方に協力していただいています。

最初に、体育館で開会行事を行い、その後、畑に移動し、子どもたちが元気よくジャガイモを掘りました。「たくさんとれたよ。」「すごい。」など楽しそうな声が響き渡りました。

子どもたちが掘ったジャガイモを、民生児童委員の方や北中のボランティアの生徒たちがきれいに洗い、ゆでてくれました。ゆでている間は、親子で竹笛や野菜でっぽうなどの竹細工を作り楽しく遊ぶことができました。ジャガイモがゆであがると、それぞれ思い思いの調味料をつけ、大きな口を開けおいしそうにいただきました。「おいしい。」という満面の笑みが見られました。

最後に、児童代表が「今日食べたジャガイモはほくほくでおしかったです。竹細工作りもとても楽しくできました。今池小学校では、毎年じゃがいもの会があるけれど、これが当たり前とは思わずに、地域の方々に感謝したいと思います。」とお礼の言葉を述べました。地域の方のおかげで、とても楽しく有意義なじゃがいもの会になりました。ありがとうございました。



私は、今回のじゃがいもの会が最後になってしまうので、すこしがっかりしていましたが、主任児童委員さんやまわりの方のおかげで、とても楽しい時間を過ごすことができました。これからも地域の方やまわりの方々に感謝しながら生活したいです。

6年2組 内山 うた

昨年は参加できなかったのですが、今年のじゃがいもの会を娘はとても楽しみにしていました。ジャガイモ植えや収穫の経験は初めて。土の中からジャガイモを見つけて喜ぶ姿に成長を感じました。収穫したてのジャガイモは、今まで食べた中でもほくほくの度合いが格段に違い、親子そろっておいしくいただくことができました。地域の方々に支えられてのじゃがいもの会ということを改めて気づかされました。協力してくださる方々に感謝と共に私自身が何か還元していける存在になれたら良いなと思いました。

2年生 保護者

笑顔の裏にある強い心に出会いました ～「輝け 命 講演会」～

6月26日(月)、5、6年生を対象に「輝け 命 講演会」を開催しました。講師として、ロンドン・北京と2度のパラリンピックで日本選手団に随行した愛知医療学院短期大学の鳥居昭久教授と韓国・仁川パラ競技大会バドミントン競技で2つの銅メダルを獲得し、現在は強化指定選手として2010年東京パラリンピック出場を目指している中日新聞社会事業団の伊藤則子選手をお招きしました。

鳥居教授からは「障害スポーツを知ろう」というお話を聞きました。障がい者スポーツの理念は、「失われたものを数えるな、残っているものを最大限に活かせ」です。心や体に障がいがあっても、それをくよくよ考えず、残った部分でできることを最大限に活かせるように努力することが大切です。また、鳥居教授は子どもたちに「工夫をすれば、障がいのある人と一緒にスポーツを楽しむことができます。足の不自由な人と一緒に卓球を楽しみたいとしたらどうするか考えましょう。」と投げかけられました。最後には、子どもたちに次の3つのことで伝えられました。

1. 心や体に障がいがあっても、一緒にスポーツを楽しむことができること
2. スポーツだけでなく、いろいろな障がいのある人も、誰もが一緒に楽しむながら生活できることは素敵なこと。
3. そのために、私たちは何ができるだろうかとかと考えてみることも

また、伊藤選手からは、「障がいと向き合って」という話を聞きました。2000kgに満たない早産で生まれた伊藤選手は、3歳か4歳の時に右脚を切断し義足を使っての生活になりました。思春期には、体を見られることが嫌でそれまで入っていたプールにも入らなくなったり、運動を避けていたそうです。しかし、大学生になってバドミントンと出会い、打ち込めることができ、人生が変わったと話してくださいました。

お話を聞いた後は、5、6年生別々に、伊藤選手とバドミンントンの対戦を行いました。義足とは思えない軽快なフットワークやスピード感あふれるスマッシュに子どもたちは感動していました。対戦の後は、鳥居教授と伊藤選手を囲んでの質問タイムでした。「義足で不便なことはありますか。」という質問に、伊藤選手は少し考え、「義足は体の一部だから、困ったことはあります。」と言った後、「お風呂に入った後は義足を洗ってしまわないように気をつけています。」と答えてくださいました。子どもたちの質問にも笑顔で答えてくれる伊藤選手で最後には、義足をはめている自分の脚も見てくださり、膝も曲がるし、足首も動くよ。足の裏もあんな感じで、触るととてくすぐったいんだよ。形や大きさはちよつと違うけど、みんなの脚と同じだよ。」とやはり笑顔で話してくださいました。子どもたちの心に、何か大切なものをいただくことができました。



今回の話で思ったことは、障がいは他の人にはない「個性」だということです。たとえ、障がいがあっても残っているものを最大限に活かせばスポーツができるということを知りました。少しやり方を変えたり工夫をすればいいのです。一緒にやらせていただいたバドミントンでは、義足を付けているので動きは少し遅いかと思っていたけれど、素早く動いていたのでびっくりしました。さすが大会で2個もメダルを取った選手だと思いました。(中略)どこか障がいがあったとしても、明るく生きてみんなと少し違うだけと思えばいいと思います。 6年1組 和西 翔



今回の講演会で私はたくさんの方の大切なことを学びました。鳥居先生のお話の中で「目が悪い人も障がい者です。目が悪い人は眼鏡をかけます。それと同じように、脚の悪い人は義足を付けます。」と言ったことがとても印象に残っています。私も眼鏡をかけているから障がいた者だ、義足を付けているからって、特別ではないんだと気づきました。私は、障がい者はいろいろ不自由だから優しくしなければ、違う接し方をしなければと思っていたけど、違いました。もちろん段差や階段が大変そうだったら手伝うとか、そういう優しさが必要だと思いました。でも、特別扱いはせずに、普通に接すればいいんだと分かりました。それもその人の個性と思えるようになりました。



もう一つ心に残ったことがあります。「何を目標に、誰を支援にバドミントンをやっていますか。」という質問に、伊藤選手が、「東京パラリンピックを目標にしています。支援は、応援してくれる人たちや家族、友達です。恵まれているなあと思いつつやっています。」と言ったことです。ちゃんと目標があつて、右脚がないというハンディの中で「恵まれている」と言えることが本当にすごいと思いました。それに、右脚が悪いからその分、人並み以上の練習をしなければなりません。伊藤選手とバドミントンをしたとき、私たちが二人とも打てるように、シャトルをまわしてくれました。優しくて努力家で、伊藤選手のことを心から尊敬しました。伊藤選手と鳥居先生のような大人になりたいと思いました。 6年2組 鈴木 愛子

※5年生の感想は、次号に掲載します。